

網筆雀図 竹内栖鳳筆

ご成約済み

蓮画讚「白光」青々斎筆



数内流13代青々斎宗匠筆の蓮画讀で「白光」となっております。「白光」とは仏説阿弥陀經のなかにある言葉で白色の花は白く光り輝いている、といった意味になります。本紙やや染みあり。

共箱 高さ約97cm 幅約56cm
¥20,000(税込)

牡丹画 原在中筆



江戸時代後期の絵師である原在中（はらざい
ちゅう）筆の牡丹画になります。原在中は応
挙にも師事したと言われていますが円山応挙
の弟子としての活動の痕跡は多く残っていま
せん。

木箱 高さ約111.5cm 幅約47.5cm
¥38,000(税込)

柯國禎 澄心 猗々簫筆

ご成約済み

各鋼分占出一行鋼女鋼

ご成約済み

芋画讚「又一味」猗々斎筆



藪内流12代猪々斎宗匠筆の芋画讀で「又一味」となっております。「又一味」とはあるものが持つ独特の風味や個性を指す言葉で、「他とは違う、何か特別なものがある」という意味合いで使われます。本紙やや折れあり。

桐箱 高さ約174.5cm 幅約47.5cm
¥25,000(税込)

「雲兮我熱心」 一行 透月角車

ご成約済み

釈教懷紙 明如上人（大谷光尊）筆 透月齋箱



西本願21世門主大谷光尊（明如）上人の筆の蓮如上人400回忌の際に書かれた雲紙懷紙になります。「たまへしけふただひのり ともし火をかかげたまひしきみそたふとき」と詠われています。透月齋宗匠の識箱。

共箱 高さ約125cm 幅約65cm ¥100,000(税込)

「知足」横書 休々斎筆



敷内流10代休々斎宗匠筆の横書の二字で「知足」となっております。「知足」は、古代中国の思想家である老子の言葉「足るを知る者は富む」に由来し、己の分をわきまえてそれ以上のものを求めないこと、分相應のところで満足することを指します。

箱無 高さ約115.5cm 幅約52cm ¥80,000(税込)

「鳳舞龍吟仙姬笑」二行書 透月齋筆



敷内流11代透月斎宗匠筆の二行書で「鳳舞龍吟仙姫笑」となっております。鳳凰が舞い、龍が吟じ仙姫が微笑むことはどれも大変出会い難く幸運が舞い降りることが重なる内容になります。

木箱 高さ約113cm 幅約31.5cm
¥100,000(税込)

		神代櫨朝顔蒔絵香合 芳郎作 神代櫨朝顔蒔絵香合で山中塗の塗師である福田芳郎の作となっております。神代櫨とは地中に埋まって変化した埋もれ木の櫨材になります。 共箱 直径約7.5cm 高さ約2.5cm ¥30,000(税込)
---	--	---

		蜻蛉蒔絵梅木地香合 宗廣作 蜻蛉蒔絵の梅木地香合で山中塗りの塗師である道場宗廣作になります。螺鈿の美しい香合になります。 共箱 直径約7cm 高さ約1.5cm ¥30,000(税込)
--	--	--

		不忘香合 九条武子箱 西本願寺の第21代法主大谷光尊の次女であり歌人でもあった九条武子箱の不忘香合となっております。不忘とは仏教用語で「忘れない」という意味です。仏教の教えや ご成約済み
---	--	--

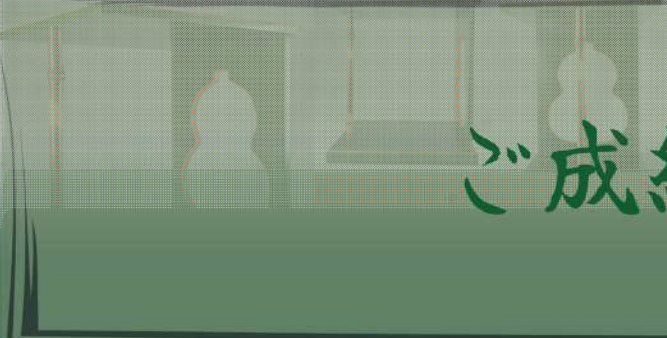
		三田青磁梅形香合 透月斎箱 三田青磁の梅形香合で藪内流11代透月斎宗匠の箱書さとなっております。江戸後期から作られていた兵庫県三田市の三輪町で ご成約済み
--	--	--

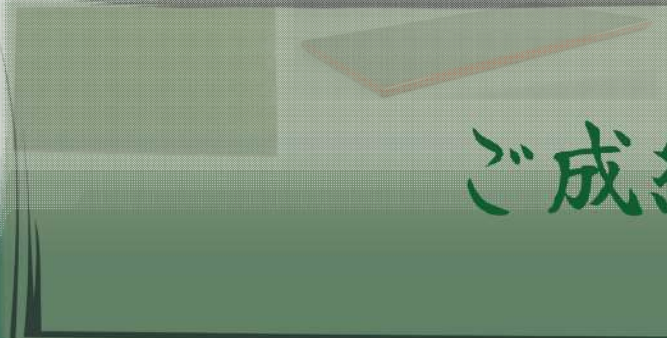
		透月斎手造梅形香合 銘「清友」 藪内流11代透月斎宗匠作の手造り梅形香合で銘を「清友」とされています。白楽の香合です。 共箱 直径約7.5cm 高さ約3.5cm ¥55,000(税込)
--	--	---

		新渡染付香合 透月斎箱 大正時代に中華民国より持ち込まれた染付合子香合になります。藪内流11代透月斎宗匠の箱となっております。 共箱 直径約6cm 高さ約4.5cm ¥100,000(税込)
--	--	--

		色紙茶箱 長以作 猗々斎在判 藪内流好みの色紙茶箱で藪内流の指物師であった松村長以の作となっております。藪内流12代猗々斎宗匠の在判です。 紙箱 縦約19cm 横約29cm 高さ約31cm ¥50,000(税込)
--	--	---

		山里棚（炉用）家伝の写し 橋口宗栄作 藪内流好みの山里棚で塗師の橋口宗栄の作となっております。藪内流12代猗々斎宗匠が「家伝の写し」と箱書されており炉用の大きさです。山里棚は元より炉用のものが先にあり大坂城山里丸の水屋棚として置かれていたものが始まりとされています。 共箱 縦約32.5cm 横約47cm 高さ約36cm ¥85,000(税込)
---	--	---

		雲脚棚 橋口宗栄作 猗々斎在判・箱 藪内流好みの雲脚棚で藪内流の塗師である橋口宗栄作になります。藪内流お家元にある雲脚の茶室の瓢箪の額辺を元に考案された棚がしきりある棚の棚になります。 ご成約済み
--	--	---

		青漆妻紅炉用長板 家伝の写し 橋口宗栄作 青漆妻紅の炉用長板で藪内流の塗師である橋口宗栄の作となっております。藪内流12代猗々斎宗匠が家伝の写しと箱書を残しております。 ご成約済み
---	--	---

		青漆妻紅風炉用長板 家伝の写し 橋口宗栄作 青漆妻紅の風炉用長板で藪内流の塗師である橋口宗栄の作となっております。炉用より一回り大きくなっています。こちらも箱 ご成約済み
---	--	--

		紹鷗棚 橋口宗栄作 藪内流好みの紹鷗棚になります。唐物棚をもとにした三段棚で天板が華鬘の形をしています。藪内流の塗師である橋口宗栄の作。 共箱 直径約38cm 高さ約48cm ¥200,000(税込)
---	--	---

黄瀬戸旅枕花入 豊田木元作 青々斎箱



黄瀬戸の旅枕花入で陶芸家の豊田木元の作となっております。どっしりした置きで使う花入れで黄瀬戸の釉薬の垂れの具合もよく出ています。藪内流13代青々斎宗匠の箱。

共箱 直径約11.5cm 高さ約20cm
¥38,000(税込)

竹釣り花入 銘「恵比寿」与雲和尚箱



大徳寺芳春院、三重野与雲和尚銘の竹釣り花入れで銘を「恵比寿」とされています。竹根の部分を使った釣り花入れです。花釣り鎖付き。

共箱 縦約29.5cm 横約7.5cm 高さ約8cm
¥35,000(税込)

古銅写六角耳付花入



古銅写しの六角花入れです。耳の部分は龍になっています。唐銅の花入れは格式が高いものとされ床の置き方や入れる花なども選ばれます。

共箱 縦約9cm 横約11cm 高さ約25.5cm
¥30,000(税込)

仁清写朝日焼花活 銘「あけぼの」猗々斎箱



仁清写しの朝日焼花入れで藪内流12代猗々斎宗匠が銘を「あけぼの」とされています。「あけぼの（曙）」は、夜が明ける直前の空がほのかに明るくなり始める頃のことを指し吉祥の訪れの前触れ等にも使われます。

共箱 直径約6.5cm 高さ約18cm
¥88,000(税込)

九谷焼赤絵龍文様花瓶 須田青華作



九谷焼の陶工である須田青華作の赤絵龍文様花瓶です。須田青華は初代より130年近くにわたり金沢の地で九谷焼の伝統技法にのっとった作品を焼き続けてきました。共箱に痛みあり。

共箱 直径約11cm 高さ約22.5cm
¥40,000(税込)

藪内好 丸敷板 透月斎在判・箱



藪内好の丸敷板で藪内流11代透月斎宗匠の在判と箱で「家伝の写し」となっております。丸の敷板ですが通常の物とは違い蛤端ではなく段付きの唐物の台のような仕様になっています。裏面にやや傷あり（花押側）。

共箱 直径約35cm 高さ約2cm
¥25,000(税込)

信楽花瓶 妙喜庵自作 小堀南嶺和尚箱



妙喜庵主自作の信楽花入れで大徳寺龍光院の住職であった小堀南嶺和尚の箱となっております。信楽の小ぶりの花入れです。

共箱 縦約9cm 横約9.5cm 高さ約17cm
¥28,000(税込)

独楽花入 16代永楽善五郎即善作



京焼の陶工である16代永楽善五郎即全の作の独楽花入れになります。独楽の意匠は、物事がうまく回るようにという願いが込められた縁起の良い文様です。

共箱 直径約8.5cm 高さ約19cm
¥30,000(税込)

古銅瓢形花入 透月斎箱



古銅の瓢形花入れで藪内流11代透月斎宗匠の箱書となっております。肌の美しい唐銅の瓢耳付花入れになります。

共箱 直径約27.5cm 高さ約9.5cm
¥75,000(税込)

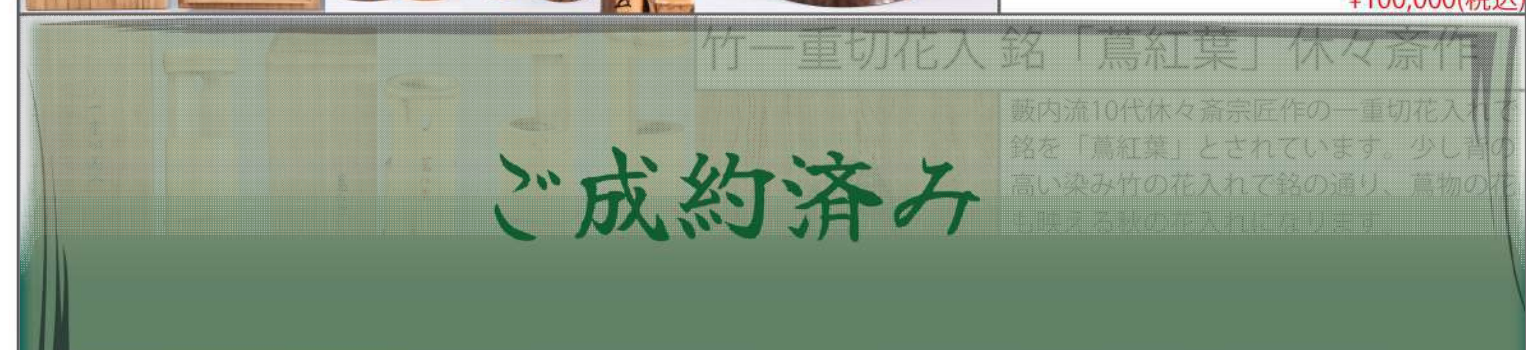
高砂花入「千代の春…」透月斎作



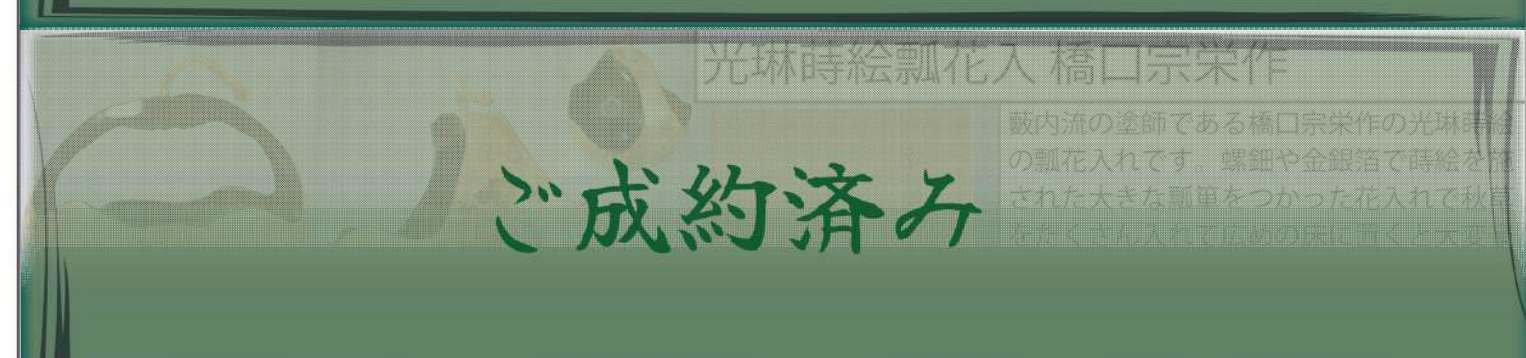
藪内流11代透月斎宗匠作の高砂花入れになります。二本の染み竹が寄り添うように鋳で合わせられた花入れで尉と姥を模した花入れになります。「千代の春契るや尉と姥がもち」と歌われています。

共箱 縦約7cm 横約12cm 高さ約39.5cm
¥100,000(税込)

竹一重切花入 銘「蔦紅葉」休々斎作



光琳時絵瓢花入 橋口宗栄作



藪内流の塗師である橋口宗栄作の光琳時絵の瓢花入れです。螺鈿や金銀箔で時絵を施された大きな瓢箪をつかった花入れで秋意を醸し出す秋の花入れになります。

竹銀線文蓋置 慶州作

ご成約済み

竹節形の銀線文、鑄造蓋置で鑄物師の井波慶州作になります。薄造りですが鑄物なので重量もあり扱いがしやすいです。



鑄造三つ人形蓋置



鑄物の三つ人形蓋置になります。唐子三人手を組合せたる形であるといわれており、古いものは利休所持の物もあるといわれていますので蓋置としても歴史の古い形になります。

桐箱 直径約5.5cm 高さ約5cm
¥25,000(税込)



赤絵龍蓋置 通次阿山作



赤絵龍蓋置で京焼の作家である通次阿山の作となっております。藪内流13代青々斎の箱となっております。

共箱 直径約5.5cm 高さ約5cm
¥20,000(税込)



鹿に鳥居絵竹蓋置 大原野神社の竹を以て作る



鹿と鳥居の絵の描かれた竹蓋置で大原野神社の竹を以て作られたものです。大原野神社は奈良の春日大社からの分社で鹿と縁が深く本殿前には狛犬ならぬ「狛鹿」が置かれているほどです。猗々斎宗匠の箱。

共箱 直径約6.5cm 高さ約5cm
¥20,000(税込)



黙雷和尚手造膳所焼蓋置 透月斎箱



臨済宗の僧で建仁寺派管長であった竹田黙雷和尚作の竹節膳所焼蓋置です。小ぶりですが手造りらしい手取りの良い蓋置です。

共箱 直径約6cm 高さ約5cm
¥35,000(税込)

唐銅火屋蓋置 中川浄益作

ご成約済み

中川浄益作の唐銅火屋蓋置になります。7代浄益頼実の作で「砂張打物の名人」「いかにみ浄益」と称され、天明の大火以降傳承していた中川家が中絶されたといわれています。

黄白炉・風炉灰匙 村田耕閑作 透月斎箱



旧くは藪内流の鑄物師であった村田耕閑作の炉・風炉灰匙の一双で黄銅と南鍍の物になっております。風炉用は少し楕円の形状になっておりこれは流儀型の特徴です。また炉用は持ち手が塗りの物になります。

共箱 横約5.5cm 高さ約24cm
¥85,000(税込)

二重口炭斗 燕庵伝来与し 乾老舗製

ご成約済み

藪内流流儀型の二重口四つ足炭斗で乾老舗製となっております。藪内流の炉用の胴炭も入るサイズとなっております。



有馬細工入れ子平炭斗 飛来一閑作 透月斎箱



有馬籠の入れ子平炭斗で一閑張りの塗師である飛来一閑の作となっております。籠は有馬の特産品で内側の黒い紙張りを一閑が行っているようです。藪内流11代透月斎宗匠の箱。

共箱 大 直径約29.5cm 高さ約5.5cm
小 直径約27cm 高さ約5cm
¥75,000(税込)



信楽州浜灰器 休々斎好み彫銘



藪内流10代休々斎宗匠の好みの信楽州浜灰器で14代永楽善五郎妙全の作となっております。州浜形の灰器は藪内流の好みであり、休々斎宗匠の喜寿の彫銘と藪内誂え印といわれる永楽の草書印が刻まれています。

共箱 直径約29.5cm 高さ約5.5cm
¥35,000(税込)



糸組瓢釜敷 無庵好 寺村糸舗製 猗々斎箱



藪内流の門下であった寺村家の寺村糸舗製、糸組瓢釜敷になります。藪内流12代猗々斎宗匠の若宗匠時代である紹光の箱書で無庵の好みとなっております。

共箱 縦約16cm 横約17cm 高さ約5.5cm
¥40,000(税込)

山道煙草盆 一双 橋口宗栄作

ご成約済み

藪内流の塗師である橋口宗栄作の山道煙草盆の一双になります。溜塗に粉目の木地が透いて見える詫びた煙草盆になります。

杉木地四方 菓子器



杉木地の四方菓子器になります。少し小ぶりで干菓子の映える菓子器になります。

紙箱 縦・横約21cm 高さ約2cm
¥15,000(税込)

重陽盆 橋口宗栄作 猗々斎在判

ご成約済み

藪内流の塗師である橋口宗栄作の重陽盆になります。重陽（ちょうよう）とは、旧暦9月9日のことで五節句の一つです。奇数である「9」が重なることから「縁起がよい」といわれています。



大谷尊由手造菓子器 萬古窯作 透月斎箱

志野の羊歯画の菓子器で西本願寺の僧である大谷尊由の手造りとなっております。藪内流11代の透月斎宗匠が桑名萬古の窯にて作る、御手造りと箱書されています。

共箱 直径約16cm 高さ約7cm
¥40,000(税込)

梅檀方盆 藪内節庵在判・箱



梅檀（せんだん）の四方干菓子器盆で藪内流9代宝林斎宗匠の次男であった藪内節庵宗匠の在判・箱書きとなっております。

共箱 縦・横約24.5cm 高さ約3.5cm
¥45,000(税込)

菊菓子盆 飛来一閑作

ご成約済み

宗旦好みの朱の菊形菓子盆で塗師の飛来一閑の作となっております。一閑張は1620年代に中国大陸から渡来した、飛来一閑が考案しました。中国の漆技術を基盤として日本に伝えた。

桐木地溜塗菓子器 二十枚 神戸雪汀作

ご成約済み

桐木地溜塗菓子器で西尾家の執事であった神戸雪汀の作となっております。民芸の木地盆のような柔らか手触りの溜塗桐盆です。旧西尾家住宅は秋田県にあり国指定重要文化財です。

透月斎手造盃台 透月斎在判・箱



藪内流11代の透月斎宗匠手造りの藪内形の盃台になります。白樂の盃台で透月斎宗匠の花押が底に彫られています。藪内流の盃は高台が大きいため利休形の盃台には乗りません。

共箱 直径約14cm 高さ約5cm
¥40,000(税込)

黄唐金釣蓋胴張爛鍋 下間浄汲作



黄唐胴（きがらみ・きとじ）の釣と蓋の胴張爛鍋で釜師の下間浄汲の作となっております。下間家は名越三典浄味に師事し、「京釜の名工」として名をはせました。浄汲は下間家の3代で文化～文政年間（1804～30）頃に活躍したと言われています。

共箱 縦約10.5cm 横約14.5cm 高さ約15cm
¥85,000(税込)

秋草彫南鐐銚子 透月斎箱



秋草の文様の施された南鐐（銀製）の銚子で藪内流11代透月斎宗匠が箱書きをされています。

共箱 縦約11cm 横約14.5cm 高さ約15cm
¥120,000(税込)

墨竹曲建水 藪内節庵好み・箱

ご成約済み

藪内流9代宝林斎宗匠の次男であった藪内節庵宗匠好みの墨竹曲げ建水です。節庵宗匠は10代休々斎宗匠の養子となり後に4代福井藩家老に就任されています。

唐銅餌畚建水 大西浄長作 透月斎箱

ご成約済み

京都の釜師である大西家13代大西浄長作の餌畚（えぶこ）形建水になります。餌畚とは鷹匠が鷹に供えた餌袋をかたどったとされています。藪内流11代透月斎宗匠の作です。

藪内流流儀型天目台 茶碗台 橋口宗栄作



藪内流の塗師である橋口宗栄作の青漆妻紅天目台、茶碗台で藪内流12代猗々斎宗匠が蓋裏に「家伝の写し」と記され、花押もされています。茶碗台は他の流儀には同様の用途の物が少なく貴人に対する藪内流の意識の高さの伺えるお道具です。

共箱 茶碗台 直径約15.5cm 高さ約8.5cm
天目台 直径約17cm 高さ約3.5cm ¥70,000(税込)

茶の実頭飾火箸 乾老舗製



藪内流好みの茶の実頭飾火箸で乾老舗製となっております。藪内流の好み火箸は胴膨らになっていることが多くあります。

共箱 長さ約29cm
¥70,000(税込)

煤竹柵網代風炉先



煤竹の柵付き風炉先で下部に網代を使ったものになります。網代（あじろ）とは網の代用品として木や草を編んだものを漁に使ったことから「網の代わり」という意味で「網代」と呼ばれるようになったのが由来です。

共箱 縦約37.5cm 横約92.5cm 厚み約4.5cm
¥38,000(税込)

藪内好片落とし風炉先 一甫作

ご成約済み

藪内好の片落とし風炉先で表具師の近藤一甫の作となっております。

遠山葦風炉先 笠仙作

ご成約済み

遠山葦風炉先で指物師の笠仙の作となっております。縁は桑木地で腰部分には葦（よし）の節でくっきりと遠山が描かれるようになっています。

丸太炉縁 駒沢利斎作

ご成約済み

木地の丸太炉縁で千家十職の一つでもある駒沢利斎の作となっております。藪内流では木地の炉縁は小間広間に関係なく使え、縁の増える春の時期（3～5月）に最もよく使われます。

木地炉縁 燕庵庭前の檜を以て造る 透月斎在判

ご成約済み

木地の檜材の炉縁で藪内流11代透月斎宗匠が炉縁側面に「燕庵庭前の檜を以て造る」と書かれており花押も残されています。材の表面に灰を塗が施されており材の美しさを引き出しています。